

11月9日に行われた「道徳教育研究協議会」では、文部科学省初等中等教育局教育課程課の堀田竜次調査官より、公開授業の指導助言及び講義を通して、御指導いただきました。内容の一部を紹介します。

《「特別の教科 道徳」の目標》

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、**道徳的諸価値**についての理解を基に、**自己を見つめ**物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

小・中学校学習指導要領 第三章 特別の教科 道徳



自己を見つめるとは？

自分の経験やその時の感じ方と照らし合わせながら、考えを深めることが重要です。



道徳的諸価値とは？

- 価値理解**
人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること
- 人間理解**
道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること
- 他者理解**
道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること

「道徳的諸価値」(価値理解・人間理解・他者理解)について、自分との関わりで捉え、考えを深めることで、**自分の成長を実感したり、課題や目標を見つけたりする「自己理解」**へとつながります。

学習活動	○主な発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応	◇指導の手立て
1. みんなで使うものを大切に使用しているのか、振り返る。	○みんなで使う物や場所をいつでも大切に使用していますか。 ・はい ⇒78.9% (15人) ・いいえ⇒21.1% (4人)	◇アンケートの結果を提示し、「みんなで使う物」というキーワードを出すことで、学習内容の柱を明確にする。
【考えること】 みんなで使うものを使うとき、どんな心が大切か。		
2. 教材「黄色いベンチ」を読んで、話し合う。 (1) ベンチの上から紙飛行機を飛ばしている2人の気持ちを考える。	○「2人は、むちゅうになってベンチの上から、なんどもなんども紙ひこうきを飛ばしました。」この時の2人はどんな気持ちだったでしょう。 ・楽しい。 ・もっと高いところから飛ばしたい。 ・いろいろな紙飛行機で試してみたい。 ・高いところから飛ばすと気持ちいい。	◇実際のイメージがわくように、自作の黄色いベンチを用意し教師が再現する。 ◇「むちゅうになって」「なんどもなんども」を取り上げ、ベンチの上から紙飛行機を飛ばすことしか考えていない2人の心情を捉えさせる。
(2) はっとして、顔を見合わせた、たかしとつおの気持ちを話し合う。	◎はっとして、顔を見合わせたとき、2人はどんなことに気づいたのでしょうか。 【自分】 ・僕たちのせいで、女の子のスカートが汚れてしまった。 ・楽しすぎて、周りの人のことを考えていなかった。 ・後で、怒られるかもしれない。 【ベンチ】	◇「はっとする」の言葉の意味をおさえ、中心発問につながる。 ◇「小グループ⇒全体」の流れで話し合うことで、多面的多角的な考えを引き出す。 ◇次の発問に生かすため、児童の反応を、【自分】【ベンチ】
(省略)		
(3) ねらいとする道徳的価値について考える。	○みんなで使うものを使うときには、どんな心が大切でしょう。(たかしとつおに必要な心はどんな心でしょう。) ・迷惑かどうかを考える心。 ・物を大切に使う心。 ・次の人のことを考える心。	◇全体で話し合う前にノートに書く活動を入れることで、一人一人が道徳的価値に向き合い、考えることができるようにする。
3. 自分を見つめる。	○今日の学習を通して、思ったことや考えたことを書きましよう。また、今までの自分を振り返って思ったことや考えたことを書きましよう。	◇ノートに書く視点を提示し、自分自身を見つめることができるようにする。 ◇事前アンケートに戻り、見
(省略)		

自己理解